

香川大学

研究協力校（課程又は障害種）

・香川大学教育学部附属特別支援学校（知的）

研究の成果

観点Ⅰ：

各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

Ⅰ-Ⅰ. 「育てたい力」の明確化及び「育てたい力」を育成するための指導内容の検討

次期学習指導要領の主旨に沿ったカリキュラムマネジメントを進めるに当たって、児童生徒の実態把握及び児童生徒に「育てたい力」の明確化、「育てたい力」を育成するための指導内容の検討を行うために、児童生徒の実態把握及び「卒業までに身に付けてほしい力」の把握、児童生徒に「育てたい力」の見直しと学部間のつながりの検討、児童生徒に「育てたい力」を育成するための指導内容の検討、これらの取組を行った。

児童生徒の実態把握及び「卒業までに身に付けてほしい力」の把握では、適応行動尺度を用いて、知的能力を含めた分析を行った。また、各学部の「卒業までに身に付けてほしい力」を把握するために、全教員及び保護者にアンケート調査を実施し、分析を行った。これらを総合的に分析して、指定校児童生徒の全体的な傾向や特徴、教育目標との関係等を検討した。

児童生徒に「育てたい力」の見直しと学部間のつながりの検討では、「育成すべき資質・能力」の3つの柱である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の観点で整理してきた各学部における「育てたい力」について、各学部間の系統性を考慮して整理した。

児童生徒に「育てたい力」を育成するための指導内容の検討では、各学部の研究授業を通して、児童生徒に「育てたい力」と指導内容との関連や、他の授業・活動との関連、学部間の系統性等について学部を越えた縦割りグループで討議し、教科等横断的な視点で検討を行った（資料Ⅰ）。



資料1 縦割りグループでの議論の様子

1-2. 学習指導要領に基づく学習内容記録表の作成

次期学習指導要領で示された知的障害の各教科目標・内容を基に、小学部と中学部を並列にして整理した「目標・内容表」を作成した。その内容表を基に、年間指導計画の見直しを行った。

「目標・内容表」（資料2）を見童生徒の個の学びの履歴として、学習内容の偏りや習得の状況を記録した。また、学習グループごとに授業計画や記録を行う際に、学習内容の偏りや年間指導計画との対応を検討するためにも活用した。これらによって、年間指導計画、個別の指導計画の作成や評価に生かすことができた。

【国語】内容表

学部	小学部			中学部	
	教科の目標			教科の目標	
	言葉による見方・考え方を働かせ、言語を通して、言語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			言葉による見方・考え方を働かせ、言語を通して、言語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	1) 日常生活に必要な言語について、その特質を理解し使うことができるようにする。			1) 日常生活や社会生活に必要な言語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。			2) 日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	3) 言葉で伝え合う良さを感じるとともに、言語感覚を養い、言語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。			3) 言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、言語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。	
段階の目標	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階
知識及び技能	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かるようになること。いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けること。いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な言語の知識や技能を身に付けること。我が国の言語文化に触れ、楽しむことができるようにする。	ア 日常生活や社会生活に必要な言語の知識や技能を身に付けること。我が国の言語文化に触れ、楽しむことができるようにする。	ア 日常生活や社会生活、職業生活に必要な言語の知識や技能を身に付けること。我が国の言語文化に触れ、楽しむことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを築き止める力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止める力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 出来事の流れを思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付けたり考えたりすることができるようにする。	イ 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	イ 筋立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 言葉で教えることやそのよさを感じるとともに、言葉を使うことへの意欲を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しみながら話し、言葉でのやり取りを楽しんだり伝えたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、言葉で考えたり伝えたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、言語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階
知識及び技能	ア 言葉の特質や使い方に關する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (1) 身近な人の話し掛けた言葉、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 (2) 言葉がもつよさやイメージに触れたりすること。	ア 言葉の特質や使い方に關する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (1) 身近な人の話し掛けや発語などの言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。 (2) 日常生活でよく使われている平仮名を触ること。 (3) 身近な人との発語を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	ア 言葉の特質や使い方に關する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (1) 身近な人との発語や発語の聞きかたを聞き、言葉には、言葉の内容を表す働きがあることに気付くこと。 (2) 発音や口調に気を付けて話すこと。 (3) 日常生活でよく使う語彙「言葉」などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を覚えること。 (4) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 (5) 文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方に、意味が変わることを知る。 (6) 正しい発音で発音すること。	ア 言葉の特質や使い方に關する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (1) 身近な人々や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (2) 発音や口調に気を付けて話すこと。 (3) 発音「発音」や「発音」発音、語彙、語彙の正しい読み方や書き方を知ること。 (4) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。 (5) 空想と現実との関係や想像する語句の役割を理解すること。 (6) 発音と発音との関係、指示する語句の役割について理解すること。 (7) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。 (8) 語のまとまりに気を付けて発音すること。	ア 言葉の特質や使い方に關する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (1) 日常生活の中で、関わりの人とのやり取りを通して、言葉には、言葉の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (2) 発音や口調に気を付けて話すこと。 (3) 発音「発音」や「発音」発音、語彙、語彙の正しい読み方や書き方を知ること。 (4) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。 (5) 空想と現実との関係や想像する語句の役割について理解すること。 (6) 発音と発音との関係、指示する語句の役割について理解すること。 (7) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。 (8) 内容の大体を覚えることができるように指導すること。

資料2 「目標・内容表」

観点 2 :

教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価

2. 児童生徒の実態把握及び「卒業までに身に付けてほしい力」の把握

知的発達に関する客観的データはあるが、社会適応に関する客観的データが取られていないため、S-M 社会生活能力検査と VinelandII 適応行動尺度を実施した。また、アンケート調査を職員だけでなく、児童生徒の保護者からもアンケートを行い、学校の教育目標や、どの領域に力を入れるかなど、教育課程を見直した。

S-M 社会生活能力検査の結果では、知能指数と社会生活指数との間にアンバランスな関係性が見受けられた。この結果から、児童生徒の強みと弱みを考慮した教育課程や指導内容の検討が必要であることがわかった。また、VinelandII 適応行動尺度に関しても、児童生徒の強みと弱みの理解につながる結果が得られた。VinelandII 適応行動尺度に関しては、適応行動総合点と知能指数の関連について検討しており、特に IQ50 を超える児童生徒への指導内容の検討が必要であることがわかった。

保護者や教員からのアンケート結果は、学部を超えて保護者・教員に共通する内容として、「コミュニケーション能力」や「あいさつ・返事」などが身に付けてほしい力として挙げられた。特に、「自分の思いを相手に伝える力」、「困ったときに援助を依頼する力」が多く挙げられた。教員からは、各学部共通の内容として、「自己選択や自己決定、自己表明する力」が身に付けてほしい力として挙げられた（資料3）。本事業以前の研究でもこれらについては取り上げており、日々の実践で大切にしていることがうかがえた。

カテゴリー	小学部	中学部	高等部
身の自由・生活習慣	・基本的な生活習慣 ・日常生活動作の向上		
力・健康	・体力づくり	・自分の体調管理	
人の関わり	・コミュニケーション能力	・コミュニケーション能力の向上	・コミュニケーション能力
コミュニケーション	・あいさつ ・自分らしく生き生きと ・相手のコントロール ・トラブルの解消 ・他者に自分の気持ち、要求等を伝える	・人の認識 ・人の関わりや関わり方と自分の気持ち ・相手の気持ちを理解し伝える能力 ・人に話しかけて話を聞ける力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・自分の気持ちを伝える力 ・自分の気持ちを伝える力	・あいさつと感謝 ・あいさつと感謝 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力
学習姿勢	・学習意欲・学習態度や技能 ・課題への意欲的な参加 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・友達との協力 ・自分でできることは自分でやる ・自分でできることは自分でやる	・課題の一員として周囲と協力する能力 ・課題の一員としてやりとが出来る ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢	・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢
社会生活	・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範	・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範	・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範
仕事	・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢	・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢	・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢
その他	・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感	・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感	・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感

カテゴリー	小学部	中学部	高等部
身の自由・生活習慣	・基本的な生活習慣 ・日常生活動作の向上		
力・健康	・体力づくり	・自分の体調管理	
人の関わり	・コミュニケーション能力	・コミュニケーション能力の向上	・コミュニケーション能力
コミュニケーション	・あいさつ ・自分らしく生き生きと ・相手のコントロール ・トラブルの解消 ・他者に自分の気持ち、要求等を伝える	・人の認識 ・人の関わりや関わり方と自分の気持ち ・相手の気持ちを理解し伝える能力 ・人に話しかけて話を聞ける力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・自分の気持ちを伝える力 ・自分の気持ちを伝える力	・あいさつと感謝 ・あいさつと感謝 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力 ・相手の気持ちを察知し伝える力
学習姿勢	・学習意欲・学習態度や技能 ・課題への意欲的な参加 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・友達との協力 ・自分でできることは自分でやる ・自分でできることは自分でやる	・課題の一員として周囲と協力する能力 ・課題の一員としてやりとが出来る ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢 ・自分の力でのめり込む姿勢	・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢 ・主体的に学ぶ姿勢
社会生活	・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範	・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範	・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範 ・社会生活での行動規範
仕事	・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢	・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢	・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢 ・仕事に真剣に取り組む姿勢
その他	・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感	・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感	・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感 ・自己肯定感

資料3 卒業までに身に付けてほしい力

観点 3：

個のニーズにあわせた指導法、学習環境・支援の工夫

3. ICT 機器を活用した授業

香川大学教育学部附属特別支援学校では、ICT 機器を本事業が始まる前から積極的に用いていた。多種多様な児童生徒がいる中で、全体としてはパワーポイントと ICT 機器を組み合わせて授業を行ったり、個別の対応では、児童生徒に合わせてタブレットのアプリや読み上げペンなどを用いたり、積極的に ICT 機器を活用している（資料 4）。



資料 4 ICT 機器を用いた授業風景

観点 4：

障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定

4. 学校外での地域の学校や地域の人との交流

地域の学校や地域の人たちと交流することは、児童生徒が学校内でできていたことを異なった環境の中で力を発揮する場となっている。

町内にある公立小学校との交流学习に加えて、香川県坂出市にある附属 4 校園（幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校）を附属坂出学園として、合同で運動会等が開催されており（資料 5-1）、地域での交流が行われている。これにより、児童生徒だけでなく教員同士の交流にもつながっている。



資料 5-1 附属坂出学園合同運動会

学校以外に地域の人との交流が行われており、香川大学教育学部附属特別支援学校の行事に積極的に地域の人が参加しており、卒業式には何十人もの人が参加している（資料 5-2）。



資料 5-2 地域の人との交流様子

観点 5 :

多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施

5. 公開授業や教育研究会による外部からの評価

研究集会や公開授業研究会などで、大学教員や外部指導者による指導・助言を受けている。研究協力者である大学教員や教育・福祉機関の外部指導者より指導を受け、今後の方向性や、研究の成果や課題を明確にすることができた。

児童生徒が自らを評価したり、保護者から学校評価を受けたり、学校評議員から評価を受けたりと、教員だけではなく、多面的な視点からの評価の実施を行っている。

観点 6：**新学習指導要領に対応した特色ある取組****6. アセスメントやアンケート調査による「育てたい力」の明確化**

観点2であげたように、児童生徒の実態を客観的に把握するため、S-M 社会生活能力検査や VinelandII 適応行動尺度によって得られた客観的データを基に、児童生徒の「育てたい力」を明確化することを目標として研究を行っている（資料6）。

今後について、児童生徒の実態の把握や「育てたい力」の明確化により、個別の指導計画の作成や評価のためのツールとして活用することの効果を検証するとともに、個別の指導計画の評価を指定校の教育課程の改善に生かすためのサイクルについて検討する。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等 ＜学びを深める＞	学びに向かう力・人間性等 ＜自己効力感・有用感を育む＞
小学部	各教科等の知識・技能	自分の思いや考えを表現する力	いろいろな活動に意欲的に取り組む力
		他者の思いや考えを聞く力	活動により良く取り組もうとする力
		自分の役割を意識し、他者と協力して活動する力	集団の中で自分のできることを発揮する力
中学部	各教科等の知識・技能	自分の思いや考えを表現し、相手に伝える力	目標を意識して意欲的に取り組もうとする力
		他者の思いや考えを聞き、対応する力	自分のよさを発揮しようとする力
		集団で改善を考える力	集団の中で共に取り組もうとする力
高等部	各教科等の知識・技能	自分の思いや考えを表現し、分かりやすく伝える力	目標を意識して自分を伸ばそうとする力
		他者の思いや考えを聞き、適切に対応する力	自分の責任を果たそうとする力
		集団の中で考えを修正したり深めたりする力	集団の中で状況を理解して取り組もうとする力

資料6 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の観点による「育てたい力」